教育センターだより

～第１０４号～

令和５年１０月６日発行

佐野市教育センター
佐野市上羽田町１１３４番地１
☎ ２０-３１０８
２０-３０４８（相談専用）

伝えたいこと、受け取っていますか？ 伝えたいこと、伝えられていますか？

様々な報道にもありますが、近年、子供の自殺者数、不登校児童生徒数は深刻な状況になっています。二次障害のような状況になると回復には相当の年月を要しますし、自殺は取り返しがつきません。**どうすれば二次障害を防げるでしょうか。大事なことは沢山あると思いますが、「子供や保護者のメッセージをしっかりと受け取ること」と「学校のメッセージをきちんと伝えること」も大事なのでは、と思います。**

【全国の不登校児童生徒数(人)】

	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
小学校	44,841	53,350	63,350	81,498
中学校	119,687	127,922	132,777	163,442

（出典）文部科学省「児童生徒の問題行動･不登校等生徒指導上の課題に関する調査」（令和３年度）

【全国の児童生徒の自殺者数(人)】

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
小学校	8	14	11	17
中学校	112	176	148	143
高等学校	279	339	314	354

（出典）「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」(確定値)
及び「自殺の統計：各年の状況」(確定値)を基に作成

子供が場所によって見せる姿が違うのは自然なことです。「**学校では元気。問題ない。**」という声をよく聞きますが、**“そう見えるだけ”**または**“過剰適応”状態で家庭では不安定な子も多い**ようです。子供たちは、学校の様々な場面で不安、戸惑い、疲れ、悲しみ、怒り、寂しさなど感じているかもしれません。**その強さ、感じ方は目には見えません。**もともと繊細な子もいますし、環境が合わない、慣れないなどで心身が弱っていると、余計に過敏になります。また、**“子供の言動には理由がある”、“困った子は困っている子”**と言います。“言うことを聞かない”、“暴言・暴力”などと表現されると、事実確認をし、反省させる指導をするかと思いますが、子供たちが伝えたいことや表現していることは何でしょうか。まずは、言動のきっかけや背景にある子供のつらさに思いを巡らせ「そうだったんだね。」「辛かったんだね。」と、じっくりと受け止めることがスタートなのではないでしょうか。

相手に自分の気持ちや考えを、伝えたい時に、分かりやすく、相手も自分も傷つけないように伝えることも、とても大事なことです。これは“アサーション”とも言われますが、大人でも結構難しいかもしれません。波風を立てないよう我慢したり、きつい言い方になったり。**同じメッセージでも、伝え方によって伝わり方は大きく変わります。**慣れ親しんだ方法を変えるのは最初は難しいかもしれませんが、慣れれば自然に出てくるようです。

～“いい感じ”に伝えるヒント ～

- ●人格や存在を否定しない
- ●Ｉ(アイ)メッセージで　例：「私は悲しかった。」
- ●見通しを示す　例：「これが終わったら話を聞くね。」
- ●語尾をやわらかく　例：「～みたいだよ。」
- ●肯定的表現で　●提案型で
- ●相手を思いやる一言を

支援者の**“いい感じ”**の言動は子供たちのモデルになるでしょうし、家庭や支援機関での関わり方が参考になることもあるでしょう。家庭、学校、その他の支援機関で協働して、子供たちが元気になるよう、より良い支援をしていきましょう。教育センターでも、児童生徒・保護者の面談や活動支援、見立てや支援方法を学校と一緒に考えるなど支援してまいりますので、どうぞお気軽に御連絡ください。

令和５年度 **教育講演会**（佐野市教育センター・佐野市教育会 共催）

演題：「地域社会で生きていくために必要な力」

講師：一般社団法人 とちぎ市民協働研究会 代表理事　廣瀬 隆人 先生

８月９日(水)、佐野市文化会館において、佐野市教育会との共催による教育講演会が、４年ぶりに対面で開催されました。長年にわたり社会教育の分野で活躍されている廣瀬隆人先生に「地域社会で生きていくために必要な力」と題して、御講話いただきました。

〈 以下、講話の概要 〉

住民税を納めている国民は２０歳以上の人口の６１％。３９％は税金すら納めることができない。こういう社会状況の中で教育が行われているが、どのようなキャリア教育が必要か。貧困のスパイラルを生まない教育が求められている。３９％の人のためにも教育をしていかなければならない。

人手不足、教員の負担増加、地域社会からの要求による問題等が、全国の学校で起きている。研修では大量の映像とＰＤＦ資料がメールで届き、コメントを求められる。働き方改革を進展させよといいながら、求められていることは過労死レベルの業務である。また、格差・貧困も深く進行しており、学校現場に大きな影響を与えている。毎年のように新しい課題や要求が学校に投げかけられているが、教員の増員や条件整備の問題には触れられず、結局は個々の教員の頑張りが求められる。新しい課題は増えるが、もうこれはやらなくてよいという通知が来ることはない。

キャリア教育は、働く意欲を喚起して職業に結びつく教育、マイチャレンジをしていればよい、などと思われがちだが、自分らしい生き方の実現を促す教育である。どのような人生を送りたいのかということに力を注いでいくべき。退職や転職が悪いわけではないが、就職する力だけ育ててもすぐに退職してしまう傾向になりがち。

今は、先の予測が困難で不確実、複雑で曖昧な「ＶＵＣＡ」（Volatility＝変動性、Uncertainty＝不確実性、Complexity＝複雑性、Ambiguity＝曖昧性）な時代。超高齢化や人口減少などの社会構造の変化、気候変動や異常気象による自然災害、感染症のパンデミック等、予測が不可能でこれまでに経験したことがない想定外の変化が起こっている。安定した職場に就職することが自己実現だと考える大人は多いが、大学を卒業しても定職に就かない人も多い。「先のことを考えてどうするのですか。私は今を生きていきます。」と語る若者もいた。日本の教育政策は、ＯＥＣＤの考えの影響を受けているが、その中核的な概念が「エージェンシー(Agency)」である。エージェンシーとは、「変化を起こすために自分で目標を設定し、ふりかえり、責任をもって行動する能力」と定義され、自分で行動し、自分で形作り、自分で決定し、選択することである。新しい言葉を耳にすると恐怖心をもつため心理的負担になるが、この概念はすでに学校に取り入れられている。コミュニティスクールの中身も全部今まで学校がやってきたこと。学校教育は安易に世の中の流れに振り回されてはいけない。

ネット上では、「ほうれんそう」(報告・連絡・相談)があるが、それよりも「こまつな」（困ったら、使える人に、投げる）や「きくな」(気にせず休む、苦しいときは言う、なるべく無理しない)が大切で、してはいけないのは「ちんげんさい」(沈黙する、限界まで言わない、最後まで我慢)といわれる時代である。２０歳代の職業観として、仕事よりプライベート重視、やりがいよりも働きやすさ、収入よりも自分らしさを生かせる仕事などが挙げられる。

学校教育は正解を出すための学習に力を注いできたが、現実の社会は正解は１つではない。また、多様な見方をできるようにするには、他の人が言っていることを鵜呑みにせず、自分の頭で考え、自分の心で感じ、自分の言葉で納得し、自主的に判断し行動する人になること、すなわち「主体の形成」が重要である。ユネスコの学習権宣言は、「なりゆきまかせの客体」から「自らの歴史をつくる主体」に変えていくこと、すなわち教育の目的は、自分で考えて決めていく人になることを示している。「～さんが言うからこれをした。」と言わないことであり、「もう誰かのせいにするのはやめよう。」ということである。「これから自分はどうしようか、そのために自分は何ができるのか。」「自分が目指すところは何なのか。」と考えること、すなわち主体を形成するために学ぶことが求められている。キャリア教育の根幹は、今学校で皆さんがやっていること。新しい教育に対応していくためには、今やっていることの中にすでにあることに気付くこと、気付く眼をもつことが大切。

長年、多様性や人権の尊重を訴えてきた森田ゆり氏は「エンパワメントは力をつけることではなく、あるがままを受容し内在する資源に働きかけること、私たち１人１人が誰でももっているパワーや個性を再び生き生きと息吹かせることである。」と指摘している。ドイツからアメリカに亡命した哲学者ハンナ・アーレントはナチスの将校アイヒマンの裁判を見て、「悪は悪人が作り出すのではなく思考停止の凡人が作る。世界最大の悪はごく平凡な人間が行う悪である。」と指摘している。アフリカ系アメリカ人の公民権運動の指導者キング牧師は、「人は発言することのみならず、発言しないということにも責任をもたなければならない。最大の悲劇は、悪人の圧制や残酷さではなく善人の沈黙である。」と述べている。

「無理。」「やったことないからできない。」と言う若者が増えているという。「やったことないけど面白そうだからやってみます。」という人材が必要かもしれない。そのためには、幼少期から様々な体験をさせ、ふりかえり、次はどうするのかを考えさせる習慣を身に付けておく必要がある。小学校の教育活動のほとんどが体験活動であり、その実践の中にキャリア教育が埋め込まれている。

次世代人材育成のポイントとして、中高生になる際に地域の指導者・サブリーダーとしての役割を体験させることが大切である。ただし、大人が都合の良い時だけ声をかけるのでなく、間違いや失敗に寛容であり、「君が必要」「君を待っている」という気持ちで接しなければならない。青少年の体験活動のポイントは、経験したことのないことをさせ、ふりかえりをさせることである。すべての学びの根源は「ふりかえり」にある。ふりかえりは変えられる未来を考え、これからどう生きるかを考えること。体験の量と質が大切。

「君がいてくれてよかったよ。」等、若者を変える魔法の言葉があるが、全ての人に通用するわけではなく、いろいろなタイプの若者がいる。また、若者は抽象的な言葉を多用することがあるが、そんな時は、「具体的には？」「例えばどんなこと？」「そのためには何をしたい？」などと具体的な事例を語らせるように促すことが大切である。さらに、若者を褒めるケースとしては、他者理解、主体性、情報の収集、整理分析などができた時に、褒める方が良い。先生方自身の授業の中にキャリア教育の要素はあるのかふりかえっていただきたい。

最後に、皆さんにこの言葉を紹介する。「人間の究極の幸せとは、人に愛されること、人に褒められること、人の役に立つこと、人から必要とされることである。」

今年度の教育センターの研修について

《ＩＣＴ活用関係研修会》

【集合研修 ２回】

① 5/15(月)　１人１台端末活用研修会
「ロイロノートの基礎的な操作･活用」

② 6/ 6(火)　端末を活用した授業づくり研修会Ⅰ
「単元や本時のねらいを達成するための端末の効果的な活用」

【オンライン研修 各３回】手軽に学ぶ３０分の研修

① 5/ 8(月)､5/23(火)､6/15(木) 16:00～
ｅライブラリ研修会
「オンラインドリル学習アプリ紹介」

② 5/19(金)､6/1(木)､6/12(月) 16:00～
インタークラスクラウド研修会
「学習者端末の画面のモニタリングや操作等ができる授業支援アプリ紹介」

③ １月･２月中に３回 16:00～
インタークラスコンソールサポート研修会
「児童生徒の Google アカウントの年次更新を行うためのアプリ紹介」

《夏季研修会》

① 8/ 8(午前)　学級経営研修会
「私の学級経営」「学級経営小ネタ縁日」
市学校教育課　指導主事

② 8/ 8(午後)　特別支援教育研修会
「インクルーシブ教育システムの推進に向けた教職員間の共通理解の図り方、チーム学校としての学校体制づくり、学校生活に困難さを抱える子供に応じた指導方法」
宇都宮大学教職大学院　特任准教授

③ 8/ 9(午前)　教育相談研修会
「不登校支援シンポジウム」
植野小学校　教諭
北中学校　教諭
あそ野学園義務教育学校　スクールカウンセラー
葛生義務教育学校　養護教諭

④ 8/ 9(午後)　情報教育研修会
「単元や本時のねらいを達成するための端末の効果的な活用・端末の活用事例の紹介」
市教育センター　指導主事

《パワーアップ研修講座》

いずれも水曜日の 18:00～19:30 に開催

6/28(水) パワーアップ研修講座の様子

① 6/28(水)　特別支援教育
「語り合おう 学び合おう 特別支援学級」
市教育センター　指導主事、所員

② 9/ 6(水)　理 科
「実験･観察の不安や悩みの解決に向けて」
城北小学校　心の教室相談員

③ 9/13(水)　情報教育
「ロイロノートの活用　授業実践編」
(株)ロイロ　研修担当

④ 9/27(水)　音 楽
「歌いたくない子供を引き付けるコツ 歌唱力が伸びるワザ」
足利少年少女合唱団　指導者

〈以下、今後の予定〉

⑤10/25(水)　道 徳
「今求められる道徳科の授業づくり」
聖徳大学大学院　名誉教授

⑥11/15(水)　体 育
「動いて学ぼう！楽しい体育の実技研修」
市学校教育課　指導主事
市教育センター　指導主事

⑦12/ 6(水)　教育相談
「不登校経験者の話を聞こう」
不登校を経験した大学生、社会人

⑧12/13(水)　英 語
「Let's enjoy talking with ALTs」
市学校教育課　指導係長、指導主事
市ＡＬＴ

「教育の力で佐野市を元気に！」佐野市教育センターは、皆さんの「やる気」と「不安」に応えます。